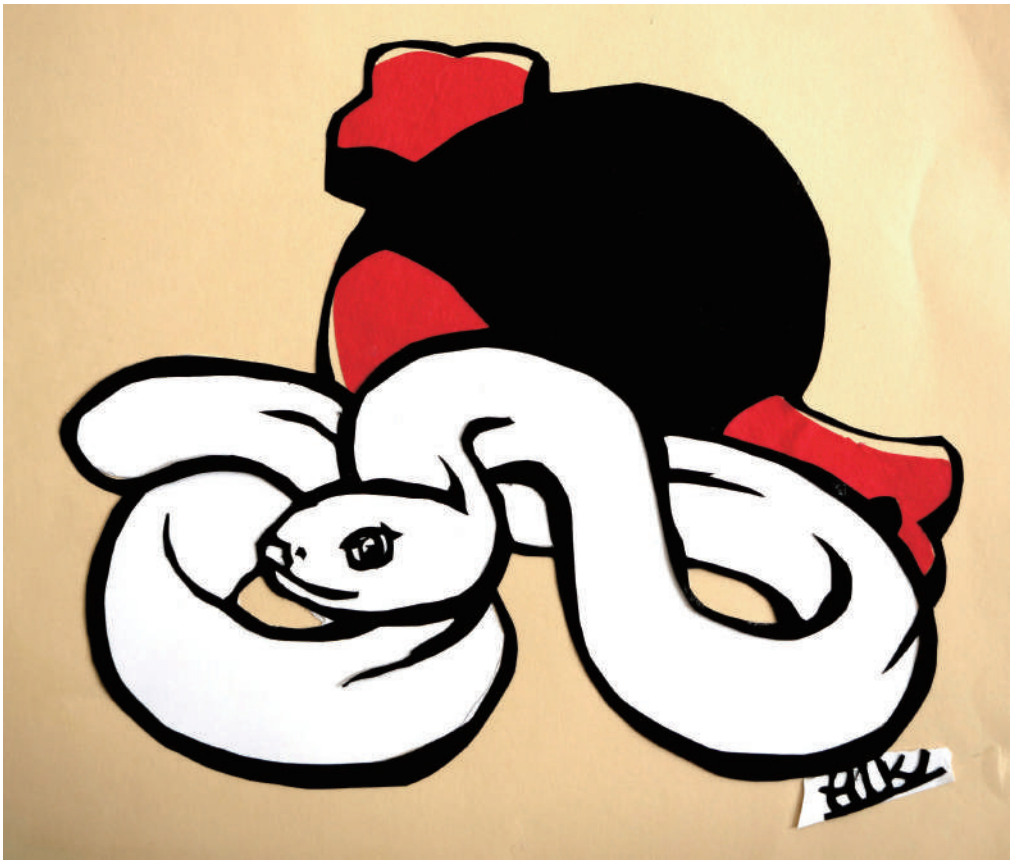


切り絵『巳』　比企善彦　作

うぶすな

茨木神社社報
発行所
茨木神社社務所
茨木市元町4－3
072(622)2346
https://www.ibarakijinja.or.jp/

神宮式年遷宮「御聴許」

昨年四月、天皇陛下より伊勢の神宮の次回遷宮について「御聴許」が下されました。「御聴許」とは「天皇陛下が聞き入れてお許しになること」であり、この「御聴許」によりいよいよ第六十三回神宮式年遷宮の準備が開始されることとなります。

伊勢の神宮の式年遷宮は、二十年に一度、内宮外宮の両正宮を始め摂社・末社の造替、さらに御装束・神宝も全て新しく整え、新たな御神威の輝きを仰ぐ神宮の最も重要なおまつりです。持統天皇四年（六九〇年）より、およそ千三百年の長きにわたり繰り返し行われてまいりました。前回の第六十二回は平成二十五年に執り行われましたので、次回の第六十三回は令和十五年となります。

これから令和十五年までおよそ九年の歳月をかけて、神宮では様々なおまつりと行事が執り行われます。陛下の「御聴許」を受けて、今度は私たち国民が一つ心となり、揃って事業に奉賛していくことになります。

日々国の繁栄と国民の安寧・豊穣を祈られる陛下の大御心に、国民の限りない敬意と感謝の思いが一つとなって進められる式年遷宮。なんとも美しい日本の国振りが現わされるときが、また始まります。

奉賛会バスツアー報告

十一月十九日、恒例の茨木神社奉賛会バスツアーが開催されました。これは毎年十一月、近畿近郊の神社を正式参拝すると共に、その近くの名所を観光するもので、毎回多くの奉賛会員様にご参加いただいております。

今年は、朝は冷えましたが日中は穏やかな秋晴れの下、五十七名の参加者が三台のバスで奈良県に向かいました。

まず桜井市にある大神神社（三輪明神）に正式参拝しました。そして独特な三輪鳥居を拝見し、広報室長の山田様からご講話をいただきました。

大神神社でのご講話の様子

その後、大和郡山市にて昼食をとり、奈良市の平城宮跡歴史公園を訪問しました。まず天平みはらし館ＶＲシアターにて平城京についての映像を視聴し、その後平城宮いざない館にて発掘調査の成果や展示を見学しました。

「倭（やまと）は　国の真秀（まほ）ろば　たたなづく　青垣（あをかき）　山籠（やまごも）れる　倭し麗（うるは）し」。倭建命が故郷を思って歌った、古事記に収録されているこの歌からも分かるように”国のまほろば（＝素晴らしいところ）“である大和国を堪能した一日でした。

＊大神神社について

大神神社（三輪明神）

大和国一の宮

【御祭神】

大物主大神

（おおものぬしのおおかみ）

【配祀】

大己貴神

（おおなむちのかみ）

少彦名神

（すくなひこなのかみ）

大神神社拝殿

大神神社の祭祀は古来より、ご神体を奉安するご本殿を建立せず、拝殿の奥にある三ツ鳥居（重文）を通してご神体であるお山（三輪山）を拝する、原初の神祀りのかたちを今に伝える我が国最古の神社です。

神代の昔、大己貴神（大国主神）が自らの御霊（幸魂・奇魂）をこの三輪山にお鎮めになり、大物主大神のお名前を以てお祀りされたのがはじまりで、今日まで御皇室をはじめ全国から参詣者が訪れ、篤い信仰を集めています。

拝殿と禁足地（立ち入ることの許されない神聖な場所）の境界を区切る鳥居は、明神型の鳥居三つを一つに組み合わせたもので、三輪鳥居とも称されます。起源は不詳ながら社蔵文書には「古来、一社の神秘なり」と記録され古来より神聖視されてきました。

三輪山は昔から「倭青垣山」や「三諸山」などと称され、標高四六七ｍの秀麗なお山です。太古より神様の鎮まるお山として入山は厳しく規制されていましたが、近代になり熱心な信者の要望もあり、神社への申し出を行えば特別に登拝が許可されています。

また天高く聳える大鳥居は、昭和五十九年天皇陛下のご親拝並びにご在位六十年を奉祝して建立され、高さ三十二ｍ、柱間二十三ｍ、材質は耐候性鋼板で耐久性は千三百年と言われています。

＊大神神社と茨木との関わり

「神婚伝承」

大神神社のご祭神、大物主大神（おおものぬしのおおかみ）と茨木の地とは古くより深い関わりがあります。

『古事記』中巻、神武天皇段に、「大物主大神が三嶋湟咋の娘、勢夜陀多良比売（玉櫛媛）を見染め、比売が便所に入りし時、丹塗矢に

化して比売の陰部を突く。そして比売は驚いたが、その矢を寝床の床に置いたところたちまち麗しき壮夫となり、比売との間に後に初代の天皇、神武天皇の皇后となられる富登多多良伊須須岐比売命（媛蹈鞴五十鈴媛命）が生まれた」という所謂「丹塗矢伝承譚」が記されています。

玉櫛媛が暮らしていた三嶋湟咋とは茨木市の東方にある現在の五十鈴町付近の事で、この地には今日、玉櫛媛と五十鈴媛をお祀りする式内社溝咋神社がご鎮座しています。

溝咋神社

＊大神神社のご祭神『大物主大神』と『大田田根子』の伝承

『日本書紀』第十代崇神天皇の御代、天下に疫病が甚だしく流行し、国の基である農作に従事する多くの百姓が流離するなど、大いに天皇の宸襟を悩ませました。そして大物主大神が天皇の御夢に現れ、この「災い」を引き起こしている事をお告げになりました。そして大物主大神は「大田田根子をして我を敬い祭らしめばこの災禍は治まる」と天皇に教えられたことから天皇は茅渟縣陶邑（現在の堺市付近）から大田田根子を探し迎え、祭主として大物主大神を祀らせた結果、疫病は静まり百姓には平安が戻り、天皇の秩序が回復しました。

大物主大神はその後、今日の大神神社である三輪殿に祭られ、天皇の行幸をあおぐ神社として朝廷の祭祀秩序に組み込まれ、大神は災禍をもたらす疫神から天下を治める天皇の守護神へと変貌を遂げました。

ではなぜ神祇は大物主大神を大田田根子に祀らせたのでしょうか。崇神天皇は大田田根子に「おまえは一体誰の子なのか」とお尋ねになられ、大田田根子は「私の父は大物主大神です」と答えました。これを聞いた天皇は「朕、當栄榮」（あれ、さかえんとするかな）と、栄楽を確信なされました。

日本書紀でのこの伝承は、祖先は子孫に祀られることによりその御霊（魂）は平安に保たれ、また子孫は祖先の御霊を懇ろに慰め、感謝の念を捧げ奉祀することで御祖神の守護を戴き、家族の皆が安心して幸せに生活を営むことができるという、祖先と子孫がお互いに祀り祀られる関係を保つことの大切さを私たちに伝えているのです。

黒井の清水大茶会

十月十三日（日）、黒井の清水大茶会（主催：茨木市観光協会）が神社境内にて開催されました。午前九時から本殿にて奉茶式が斎行され、お抹茶とお菓子が御神前に供えられました。

午前十時より、本殿前の境内を第一会場に、儀式殿一階和室を第二会場にして実施され、多くの方々が野点を楽しんでおられました。

境内休憩所に設けられた舞台では、長谷川あつこ様・長谷川友紀様による琴の演奏や、茨木神社雅楽会による雅楽の演奏が行われ、来場者の耳を楽しませました。

黒井の清水大茶会

抜穂祭

毎年神社の境内では、伊勢の神宮でのみ栽培され、「イセヒカリ」と名付けられた稲を、少しですがお頒かちいただき苗から育てています。今年も夏の暑さと度重なる風雨にも耐え順調に生育して、実りの秋を迎えました。神様の御恵み・お蔭でできた米なので「御蔭米」と名付けて、恒例の抜穂祭を十月二十六日に斎行し、十一月二十三日の新嘗祭に御神前にお供えいたしました。

抜穂祭

花手水

十一月一日、本殿前西側の手水舎に、多くの氏子の有志の方々で美しい花手水が奉納されました。七五三詣の方々にも喜んでいただき、秋の爽やかな季節を感じていただきました。

花手水の様子

御朱印について

●令和七年新年御朱印を頒布いたします。新年にふさわしい梅の花と、幸運を導く巳を中心に制作しました。初詣にご参拝の際にぜひお受け下さい。

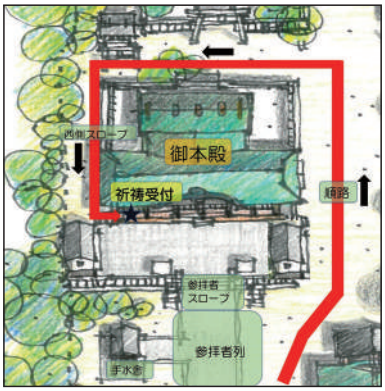
（初穂料は五百円です。数に限りがございますので、準備枚数が無くなり次第終了とさせていただきます。）

今後の神事について

◇初詣

例年、正月三ヶ日は多くの参拝の方々で賑わいます。そして皆様には何かとご不便をお掛けしますが、案内掲示や係員の指示にご協力いただきますようお願いします。

なお、厄除などの諸祈祷にお越しの方は、正面参道のご参拝列にお並びになることなく、左図の通り、直接本殿裏より西側スロープを上がり、本殿西側の祈祷受付にお越し下さい。



◇十日戎

今年も例年通り一月九日～十一日の三日間斎行されます。

この間、福笹・吉兆の授与、十日には宝恵籠巡行が行われます。

◇御火焚（とんど）

一月十五日の午前中に斎行いたします。正月飾りは当日正午までにお持ちいただきますようお願いいたします。

これからの行事予定

◆**越年祭**
十二月三十一日

◆**歳旦祭**
一月一日午前十時斎行

◆**十日戎祭**
一月九日～十一日

◆**御火焚（とんど）**
祈祷木奉焼祭
一月十五日

◆**節分祭**
鎮魂星祭
二月二日

◆**初午祭**
二月六日

◆**紀元祭**
二月十一日

◆**人形奉焼祭**
四月八日

◆**春祭（祈年祭）**
奉賛会厄除安全祈願祭
四月十八日

◆**大祓・茅の輪くぐり神事**
六月三十日